
研究資料

ビャクシンにみられる個体の分解と合体の一事例

小笠原 隆 三*

One of Examples about Individual Disjoint and Individual Joint of *Juniperus chinensis* L.

Ryuzo OGASAWARA *

I はじめに

老大木には、二つ以上の個体が接触して生育しているもの、すなわち、合体木といわれているものが存在する一方で、一つの個体が複数の個体へ分解していくことのあることがみとめられている。²⁾ 本報では、同一場所に生育している4本のビャクシンにおいて、複幹化と複個体化および接触による合体の初期段階などがみとめられたので、分解、合体の一事例として報告する。

II 調査木

調査木は、山梨県甲西町の古長禅寺の境内に生育している4本のビャクシンである。これらは夢窓国師が植栽したと伝えられているもので、別名を四ッ白檀と呼ばれ、国指定の天然記念物である。これらのビャクシンは、10~15mの間隔で四隅に植えられており、樹齢は600年以上、根回りは4~6m、樹高は12~17mである。¹⁾

III 結果と考察

ビャクシンも、他の樹種と同様に樹齢の若い段階では単幹からなる樹形を呈している(写真1)。ビャクシンは、樹齢が高くなると柱状のくびれが発達することが多く、こうしたくびれには枯死しているものがしばしばみとめられる(写真2)。

枯死しているくびれは、何らかの理由でくびれ上の枝葉がなくなったことによるものである。くびれ上の枝葉がなくなると、くびれの樹皮の色があせていき、やがて剥皮して木質部が露出するようになる。

枯死したくびれの間にある生きたくびれにはまきこみが発達し、幹化、すなわち細い幹状を呈

*鳥取大学農学部 農林総合科学科 森林生産学講座

Department of Forestry Science, Faculty of Agriculture, Tottori University

するようになっていく。そして、やがては主幹から分離した状態になっていくものが多い（写真3）。また、こうした状態になった老木には、幹にきれつが生じたり空洞が生じているものが見られることがある（写真4）。これらのきれつや空洞の存在は、くびれの幹化を一層促進させる。くびれの幹化がすすむと、やがて幹化したものがそれぞれ分離して複数の幹をもつ樹形へと変わっていく（写真5）。しかし、中には幹の中途では完全に分離しているが先端部でつながっているものがしばしばみとめられる（写真6）。このような複幹化は、カヤなど他の樹皮でもみとめられている。²⁾ 複幹化がさらにすすんでいくと、やがて複個体化がみられるようになる（写真7）。

しかし、その初期の段階では複個体となったようにみえても、基部でわずかにつながっている場合が多い（写真8）。このような状態がさらにすすむと地際から完全に分離してしまう。すなわち、分離による分解がみとめられる（写真9）。分離したものは、まきこみが発達していくにつれて、はじめから別の個体であったかのようになっていく。このように幹が完全に分離して分解したもので、幹と幹との間に空地がみられ、その空地と隣接したところに別の若い木の発生がみとめられる（写真10）。この若木は、分離してできたものとは異なるものである。このような若木は、生育が進んでいくとやがて老木と接触して合体木となることが予想される。そうした合体の初期段階とみられるものが同じ場所でみとめられる（写真11）。この両者は地際で接触しており、やがては幹同志も接触し通常みられる合体木となっていくものと考えられる。なお、この若木にはまきこみが全くみとめられず、老木から分離したものでなく明らかに別の個体である。

以上のように、同じ場所に生育しているジャクシンにおいて、単幹をもつ個体から複幹をもつ個体へ、さらには複個体化していく過程がみとめられる。それと同時に、隣接して生育している別の若い木と合体していく初期の段階もみとめられる。

このような個体の分解や合体は他の場所でもみとめられるものである。そうしたものの中には分解、合体が肉眼的には判然としないことがある。すなわち、一つの個体から分解してできたものが、はじめから複数の個体とみなされたり、反対に複数の個体が合体しているものが一つの個体とみなされることがある。

引用文献

- 1) 牧野和春編著：巨樹，名木巡り（甲信越・中部），牧野出版，東京，pp.30～31（1990）
- 2) 小笠原隆三：巨樹，老樹における個体の合体および分解，広葉樹研究7，pp.49～80（1993）



写真1 単幹の樹形



写真2 生存のくびれと枯死のくびれ



写真3 分離しつつあるもの

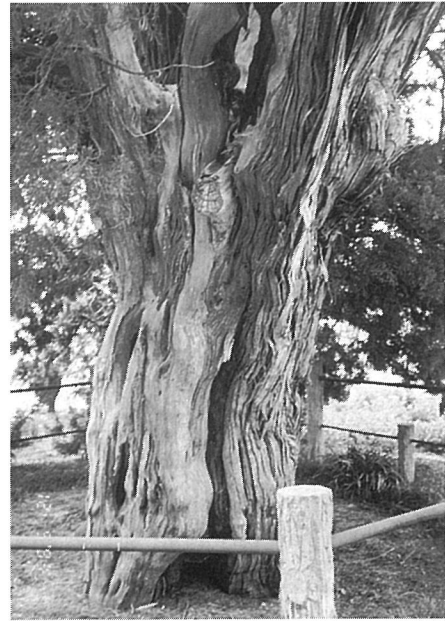


写真4 幹のきれつと空洞化



写真5 上部でつながっている枝幹



写真6 複幹となったもの



写真7 複個体しつつあるもの



写真8 幹の基部のつながっているもの



写真9 完全に分離し空地のあるもの



写真10 空地とその近くに生育している若木
(1本は合体しつつある)



写真11 若木との合体しはじめたもの